

# 職場の交通安全

18

# 事故防止コンサルタントの活動日誌

## 重大事故防止活動について

# SOMPOリスクマネジメント株式会社 シニアプロフェッショナル 落合 律

# 落合 律

最終回

はじめに

日頃から安全運転管理者（以下、管理者者という）が熱心に事故防止活動を実施し、運転者が交通安全を、心がけ、慎重な運転をしたとしても、残念ながら交通事故が発生する可能性はなくなりません。また、交通事故が引き起こす被害のレベルも様々で、ボディが少し傷つく自損レベルの事故か、人身事故などの重大事故かは、事故が発生した後でなければわかりません。ただ、内容が重大事故だと事故を引き起こした運転者は、もとより、社有車を保有する企業に

も責任が重くのしかかることになります。そこで今月は重大事故防止活動について説明します。

**重大事故防止のために**

コンサルティング先の事故防止に関する打ち合わせに参加した際に、管理者から「当社はバックの際や狭路走行の際にボディを傷つける程度の事故は多くありますが、重大事故はないので大丈夫です。」といわれることがよくあります。しかし、この認識はリスク管理の観点から問題があるといわざるを得ません。「一つの重大事故の背後には29の軽微な

事故があり、その背景には300の異常（ヒヤリ・ハット）がある。」というハインリッヒの法則（図）があります。つまり、重大事故を防ぐためまず行うべきことは、日頃から不注意・不安全な行動による軽微な事故を発生させないようにすることが重要です。

よく聞きます。これはおそらく自身で納得できる事故防止活動の「型」がないからかもしれません。

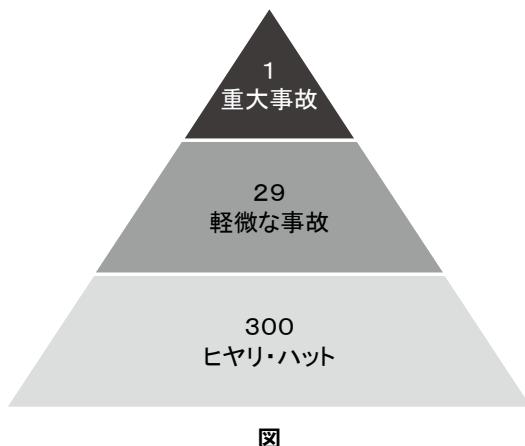
**事故件数削減活動の「型」**

重大事故防止のためにまず、すべきこととして「軽微な事故も含め、事故件数を減らす」ことはおわかりいただけたと思います。ただ、事故件数削減活動を開始してみたものの「思ったように事故削減の成果が出ない」「やり方に自信が持てない」といった悩みを管理者の皆さまからよく聞きます。これはおそらく自分自身で納得できる事故防止活動の「型」がないからかもしれません。

私が考える事故件数削減が実現できる活動の「型」は自動車事故防止活動に関する「P D C Aサイクル」を回し続けることです。P D C AサイクルとはP l a n（計画）→D o（実行）→C h e c k（測定・評価）→A c t（改善）を繰り返すことで

うならば次年度の施策を変更するところが事故防止の効果を上げていくうえで必要です。試行錯誤が事故防止活動においても必要です。

P D C A サイクルの C のやり方を紹介します。



## ハインリッヒの法則

きる活動の「型」は自動車事故防止活動に関する「P D C Aサイクル」を回し続けることです。P D C AサイクルとはPlan(計画)→Do(実行)→Check(測定・評価)→Act(改善)を繰り返すことで

P D C A サイクルの C のやり方を紹介します。



イラスト・本田牧子

**継続的取組**

管理者の皆さまから「今までこの事故防止活動を続けてよいのか?」と聞かれことがあります。事故防止の特効薬は残念ながらありません。永続的な自動車事故件数削

する効果が出ていているかを確認します。職場の複数の人たちに聞いてみましょう。周知できていないようであれば、その要因を分析し、改善することが必要です。

1 まず、事故防止に関する取組状況について運転者へ実施状況を質問することをお勧めします。アンケート項目の具体例としては「職場における事故防止活動を理解していますか?」「今月の安全標語を言えますか?」などがよいでしょう。その結果、現在実施している事故防止活動が職場であまり浸透していないという残念な結果が出るかもしれません。現場の

3 職場内で施策が周知され、期待する効果が出ているかを確認します。テーマを決めたのであれば、その内容がきちんと周知されているか、

2 次に当初計画された施策が確実に実施されているかについて点検しましよう。時間がない、対象者が集まらないなどを理由に実施されないことがあります。計画された施策は確実に実施しなければ、当然、効果は見込めません。

実情を的確に把握する手法として有効です。改善のきっかけになりません。

減を実現させるためには、自動車事故防止活動を「安全文化」として職場内に浸透・定着させることができます。

です。そのためにはP D C Aサイクルを1回（あるいは数回）で止めることなく永続的に回し続け、スペイ

ラルアップさせることが必要です。ただ、これは「言うは易く、行うは難し」です。私は、自動車事故防止活動を前向きに取り組むためには、比較的達成可能な目標も計画に織り交ぜ、たとえわずかでも「事故防止の成果を出し続けること」が必要だと思います。成功体験がなければ物事の継続は難しいからです。

## おわりに

長らく掲載させていただきました本シリーズは今回で最終回です。多くの職場で実施いただいている交通安全に関する活動から効果が見込めれる内容をお伝えしてまいりました。少しでも参考にしていただき、これから事故防止に役立つことを祈念しております。

（おちあい・りつ）